

コミュニティ・スクールは地域とともにある学校をつくる取り組みです！

コミュニティ・スクールだより

群馬県立館林特別支援学校・館林高等特別支援学校

令和8年7月発行

♥ 令和8年度第1回学校運営協議会を開催しました ♥

学校運営協議会の内容

- (1)委嘱状交付・委員自己紹介
- (2)県教委挨拶
- (3)会長・副会長の選出
- (4)令和8年度学校運営に関する基本的な方針の説明と承認
- (5)協議
各校の教育活動紹介及び「熟議」
- (6)連絡 今後の学校評価等

令和8年度学校運営協議会委員

上三林区長、三野谷公民館長、
館特PTA会長、館高特PTA会長、
第七小学校長、栄寿クラブ連合会会長、
館林市高齢障がい政策課障がい福祉係
長、商工会会議所専務理事、
相談支援センターほっとセンター長、
障がい者総合支援センター所長、
NPO法人HOME理事長、
地域学校協働活動推進員(CS推進員)

熟議のテーマ

館特・高特の子どもたちのために学校運営協議会で協議したいこと
～これからのコミュニティ・スクールの取り組みを考える～

【地域社会への参加】

市民フェスティバルでの
受付・販売補助や、
ダンスサークル等で
小さな子に本を読み、
一緒に遊ぶ体験。

【感謝の フィードバック】

地域の方々や利用者
から直接「ありがと
う！」と声をかけられ
る。

【見守りの中で 「やり切る」】

保護者や教員が一步
下がり、子ども自身が
自分の力で最後まで
活動をやり切る。

【自己肯定感と 次への意欲】

「自分にもできる！」
という強い自信が芽生
え、次の主体的なチャ
レンジへ繋がる。

子ども達のため
になる活動の創出
(教職員の負担も
考慮・ボランティア
の活用も)

地域産業、企業、商店など
地域の方々と学校、
両者に価値のある活動を工夫
(栽培活動、作業生産活動など)

余暇につながる
活動も。
(ボッチャや卓
球など)

卒業後も地域社会の一員として輝き続ける子どもたちのために
◆学校教育でできることを考える ◆切れ目ない支援を考える

学校運営に関する各委員からの意見

A委員



家庭での役割と個別指導の充実

時計を読む、役割を持つといった家庭内での成功体験が意欲向上に繋がった事例を紹介し、学校でも個別指導の場面を増やすよう要望。

B委員



自ら考え動く力の重要性

「自分で考え、決め、動く」という学校方針に共感し、積極性や仲間との連携は学習と同等に将来役立つ要素であると指摘。

C委員



就業体験と即戦力育成

学校での就業体験が、企業への就職および即戦力としての生徒の育成に直接結びついていると評価。

D委員



通常中学校からの入学生への適応支援

特別支援学級（通常中学校）から入学してくる生徒たちの、入学初期における学校生活への適応状況について現状を確認。

学校側の回答



先輩との交流によるスムーズな適応

入学者の約半数が通常中学校出身であることを踏まえ、対面式や学科別歓迎会を通じて先輩と交流し、環境変化の不安をケアしていると説明。

E委員



地域貢献活動への感謝と今後の連携

公民館の窓清掃活動に感謝。サツマイモ栽培などの区長会との連携においても、公民館が「つなぎ役」として協力する意向を表明。

F委員



交流活動のマンネリ化解消と内容再検討

継続中の「昔遊び交流」が時代に合っているか懸念。学校側から「今の子どもたちに経験させたいこと」の提案を求め、内容を刷新したいと申し出。

G委員



地域における障害理解とウェルビーイング

教育は将来のウェルビーイングの基礎。コミュニティ・スクールが地域と学校を繋ぎ、障害への理解を広める重要性を強調。

H委員



各校種の連携と地域での成長支援

小・中・特別支援学校が役割を理解し、情報を共有しながら、地域全体で子どもたちの成長を支えていくことの重要性を確認。

I委員



卒業後の人生を見据えた「意思決定支援」

福祉の現場から、卒業後の居場所や就労を地域課題として捉え、本人が自分らしく生きるための「意思決定支援」を学校と共に進めたいと総括。